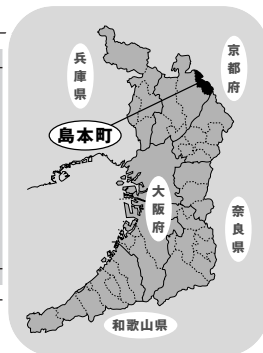


# わたしのまちのPR

## 島本町編



島本町は、大阪府の北東部に位置し、東は淀川を挟んで、枚方市と八幡市と接しており、西は高槻市と、北は京都市、長岡京市、大山崎町にそれぞれ接しています。全体の約7割を山岳丘陵地が占め、天王山南側の平坦地に市街地を構成しています。

町内には、名神高速道路や国道171号など主要幹線が走っており、また、阪急電鉄京都本線とJR東海道本線が通るなど交通の便もよく、豊かな緑や水という良好な生活環境を背景に住宅地として発展してきました。今年3月にはこのJR東海道本線に新駅「島本駅」が開業し、今後更なる発展が期待されています。

この島本町の魅力や特色について、総合政策部次長兼政策推進課長の近藤さんにお話をお伺いしてきました。



本日はどうぞよろしくお願ひします。

早速ですが、島本町の歴史を教えてください。

よろしくお願ひします。

本町は、風光明媚な地としても知られ、都の帝や貴族たちはこの地に別荘や住居を構え、歌を詠んだり、狩りをして遊んだといひます。万葉集以来、町内の川や山などを詠んだ歌が多く残っています。

また、陸路（西国街道）、水路（淀川水運）の交通の要衝として古くから栄えてきました。町内やその周辺は、『太平記』の楠公父子別れ、山崎の合戦、鳥羽伏見の戦など日本史上有名な出来事の舞台となっています。

明治22年に、大沢村、尺代村、山崎村、東大寺村、

広瀬村、桜井村、高浜村の7村が合併して島本村が誕生しました。大正時代の末頃には、ウイスキー蒸溜所や紡績工場が建ち、産業のまちとしてにぎわいました。昭和15年4月の町制施行により島本町となり、戦後は都市近郊のベッドタウンとして発展し、現在に至っています。

島本町の歴史を感じられるスポットを教えてください。

歴史を感じられるスポットとしては、まず水無瀬神宮がおすすめです。後鳥羽上皇は水無瀬の地を愛し、離宮を建て、たびたび行幸されました。承久の乱で隠岐に流され没した上皇を祀るために建てられた水無瀬神宮は、客殿と茶室が国の重要文化財に指定されています。境内には、昭和60年に府内で唯一、環境省の名水百選に認定された「離宮の水」があります。この水は、水無瀬川の伏流水（地下水）で、島本町の水道水は、この名水と水源の一部を同じくする地下水を約9割使っています。

JR島本駅前には、国の史跡に指定されている「桜井駅跡」があります。駅跡といっても鉄道の駅ではなく、大化の改新以降、中央と地方の連絡のため各地に設置された馬などを備えた施設（宿駅）の跡

水無瀬神宮



離宮の水



といわれています。『太平記』では、足利尊氏を迎え撃つため兵庫に向かった楠木正成が、途中、桜井の宿（駅）で嫡男の正行を河内国に帰らせたといわれています。この伝承は「桜井の別れ」として後世の人びとに広く知られ、詩や歌の題材として取り上げられています。

市街地を見下ろす山間にある若山神社は、素盞鳴命を祀り、奈良時代の高名な僧・行基が創建したと伝えられています。春は桜、秋は紅葉の名所としても知られており、この季節には多くの人を訪れます。境内に自生する42本のツブラジイの巨樹は、府の天然記念物に指定されています。

桜井駅跡



若山神社（紅葉又は桜）



歴史や文化を大切に受け継がれているんですね。その他のおすすめの場所を教えてくださいませんか。

豊かな自然も本町の魅力の一つです。

町域の7割を占める山間部には、幹回り約6.7メートル高さ約20メートルの巨樹「大沢のスギ」、樹齢600年から700年といわれる「尺代のヤマモモ」があり、いずれも府の天然記念物に指定されています。

夏にはホタルが飛び交う水無瀬川では、上流に山吹溪谷と呼ばれる溪谷があり、溪流釣りやハイキングが楽しめます。この溪谷には、高さ50メートルの「乙女の滝」もあります。また、名神高速道路天王山トンネルの出口近くにある「水無瀬の滝」は、天王山断層が落ち込んでできた高さ20メートルの滝ですが、古くから歌に詠まれ、後鳥羽上皇も観賞されたという名勝です。

大沢のスギ



水無瀬の滝



J R島本駅西側の桜井地区では、のどかな田園地帯を生かして自然や伝統に親しむ取組が行われています。春は菜の花摘み取り園とレンゲ畑、秋はコスモス・ヒマワリ園が開園、正月には地域の伝統行事「どんど焼」（正月のお飾りなどを青竹とわらで組み上げた高いやぐらにくべて燃やす）が行われます。駅のすぐ近くですので、ぜひ訪れていただきたいですね。

こうした町内に多く残る史跡や自然をより楽しんでいただくために、「史跡マップ」やハイキングコースの地図を作成しています。ハイキングコースは6コースあり、体力に合わせて、本町の歴史と自然を辿ることができます。この地図は、町ホームページ

どんど焼



れんげ畑



から簡単に手に入ります。本町にお越しの際は、是非、史跡マップを片手に町内を散策していただき、新たな島本町を発見していただければと思います。

お話にもありましたが、島本町の新たな玄関口としてJR島本駅が開業しましたね。

住民の長年の夢であった島本駅は、昭和36年に旧国鉄に新駅設置の陳情を行ってから、47年の歳月をかけてようやく今年3月に開業を迎えました。

開業日の3月15日には、「手づくり感」をテーマにしたオープニングイベントを開催しました。開業式典のほか、記念コンサートや鉄道写真展など各種イベントを開催し、町内外から12,000人もの人が集まりました。特に、ミニSLの運行や記念入場券が人気で、長い行列ができていました。

島本駅  
オープニング  
イベント



大勢の人で賑わったんですね。

島本駅では、列車の接近を知らせる警告音に独自のメロディが使われているそうですね。

本町の「山崎」の地は、平野と盆地に挟まれた独特の地形と湿潤な気候、そしておいしい水という、ウイスキーづくりに最適な環境を備えています。この恵まれた環境を生かして、大正13年、寿屋（現・サントリー）山崎蒸溜所が日本最初のウイスキー蒸溜所として開設されました。島本町は、まさに日本ウイスキーの発祥地と言えます。

このサントリーウイスキーのCMソングとして有名な「人間みな兄弟～夜がくる」が、島本駅のホームに流れる列車接近警告音として使われています。

サントリー山崎蒸溜所



これは、駅で毎日流れる警告音に「島本町」をイメージするメロディを流すことで、本町を訪れる人たちに興味を持ってもらおうと、JR西日本に要望し実現したものです。電車を待つひと時、ちょっと耳を澄まして、島本町のメロディを楽しんでいただければと思います。

島本駅の周辺では新たなまちづくりが進んでいますよね。

そうですね。ようやく開業した島本駅ですが、これを単なる通勤・通学の最寄駅として利用するだけでは、町内の活性化にはつながりません。島本駅を活用して本町の魅力を広く内外にPRすることで、はじめて人の流れが生まれ、地域の活性化につながることができます。

その取組のひとつとして、島本駅と阪急水無瀬駅

を結ぶ府道桜井駅跡線沿道の用途地域等の見直しを行いました。駅を中心とした商業拠点を結ぶこの道路を新都市軸として位置づけ、新都市軸にふさわしい商業などの土地利用を可能とする用途規制の変更を行うことで、土地の高度利用を進めるためのものです。

また、今年4月に島本駅近くに正式開館した町立歴史文化資料館（旧麗天館<sup>れいてんかん</sup>）も、取組のひとつです。昭和16年に講堂として建築された麗天館は、戦後、大阪府立青年の家の講堂として利用されていました。この青年の家が閉所されたことを受けて、平成16年に大阪府から無償譲渡を受け、歴史文化資料館としてリニューアルオープンしました。建築当時のたたずまいをそのまま残す資料館内部では、町内の遺跡から出土した考古資料や、町内で実際に使われていた生活用具や農具などの展示を行っています。今後は、イベントを実施するなどして、本町の情報発信基地としての機能充実にも取り組んでいく予定です。

本町の新たな玄関口となるこの島本駅が、町内の活性化の起爆剤となることを期待しています。

町立歴史文化資料館（旧麗天館）



なるほど。島本駅開業を契機として、地域のさらなる活性化に取り組まれているのですね。

この島本駅の開業により、官民の関係でも新たな協働関係が生まれています。今年1月には、行政と住民が一緒になって地域の賑わいづくりに取り組んでいく「しまもと賑わいづくり協議会」が発足しました。さきほど紹介した島本駅オープニングイベントも、この協議会が中心となって実施したものです。

今後も、こうした官民協働の賑わいづくりを継続することで、住民との心のふれあいと連帯意識を育

むまちづくりを進めていきます。

地域の活性化に向けた取組が、新たな官民協働につながっているのですね。

本町では、住民参加による住民と行政との協働を施策の基本に据えて、まちづくりに取り組んでいます。そのための仕組み作りとして、現在、将来のまちのあり方や、まちづくりの理念、基本原則などを定める「(仮称) 島本町まちづくり基本条例」の制定を検討しています。住民と一緒に考えて、目指すべきまちのイメージを共有することで、真の住民自治の実践を目指していきます。

しかし、これを行政の視点からだけで検討し、制定したのでは何の意味もありません。そのため、住民の生の声を出来る限り条例に反映できるように、一般公募による外部委員の参画した「(仮称) 島本町まちづくり基本条例策定委員会」を設置し、条例の内容を検討してもらっています。

委員会での活発な議論が、条例の内容の検討だけでなく、住民の皆さんがまちづくりを考えるきっかけになってくれることを期待しています。

まちづくりの基本となる条例制定に向けて住民と一緒に取り組まれているのですね。

最後になりますが、今後の抱負について教えてくださいませんか。

人口減少をはじめ、少子高齢化の急速な進展など、地方自治体を取り巻く状況は、ますます厳しさを増しています。このような中で、住民福祉を維持・向上させ、更なる発展を図っていくためには、住民との協働が欠かせません。

住民との協働を推進し、住民に役場をより身近なものとして感じてもらえるよう、これまで以上に「見える工夫」「見せる努力」を行い、「行動する役場」、「顔の見える行政」としてさらに開かれた町政運営に努めていきます。

「行動する役場」、「顔の見える行政」の実現に向けて、一層躍進されることを期待しております。

本日は、お忙しい中、ありがとうございました。